

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：軍がスィーサー国防相兼総司令官の大統領選出馬を支持

1月27日、軍最高評議会（SCAF）は緊急会合後、スィーサー国防相兼総司令官の大統領選挙への立候補を事実上支持する声明を発表した。声明では、スィーサー総司令官の大統領選立候補は本人が愛国精神に基づいて決定することであるとした上で、SCAFは、国民の意思こそ我々が従うべきものであり、総司令官にはエジプト国民の大統領選立候補を求める声に応える義務があると考え、という内容であった。これは、軍がスィーサーの大統領選挙への立候補を公然と支持したことを意味する。軍人が立候補するという否定的意味合いを、国民の意思に応えるという形で打ち消す狙いと思われる。さらに同日、マンスール大統領はスィーサー総司令官を陸軍元帥（軍の最高位）に昇進させる大統領令を発出した（正式な昇進は2月1日付）。この大統領令も、スィーサーの大統領選出馬に向けた準備とも解釈できる。

評価

大統領選挙は2月17日から4月18日の間に実施されることが決まっており、近日中に大統領選挙に関する法律と大統領選挙日程が発表される見通しである。クーデター以降、国民の間でスィーサーを大統領に望む声は日に日に高まっている。

国民がスィーサーを支持する理由の1つには、「テロ組織」ムスリム同胞団の取り締まりやシナイ半島の過激派掃討作戦で結果を出せるとの期待があると思われるが、この期待通りに物事が進むとは考えにくい。クーデター後、過激派は、反対派を大量に逮捕し続ける軍・警察に対する攻勢を強めており、9月以降は本土でも治安当局を狙った爆弾テロが数件起きている。年末から1月にかけてガスパイプラインが3回爆破され、1月24日にはカイロで4件の爆破テロが発生し、1月27日には内務省幹部がギザ県ハラム地区で射殺された。これらの多くは「エルサレムのアンサール団」という過激派による犯行である。軍の後方支援を受けた暫定政権による移行プロセスが進むにつれて、暫定政権・治安当局に対する過激派の攻撃は多くなっている。今後、過激派は移行プロセスを妨害するべく、大統領選挙や議会選挙の時期に治安当局および幹部を狙った犯行を繰り返すと考えられる。なお、スィーサー国防相は過激派の最大の標的である。

したがって、同相が立候補して大統領に当選した場合も、また他の人物が大統領となった場合も、軍の政治的影響力が強い限り過激派の事件は続き、治安の安定化は難しいと考えられる。

（金谷研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799